

海 (かいし) 市

No. 20

● 詩

02 横山 仁 生活の柄 (15)

04 前田 勉 音のない朝に

● エッセイ

08 細部俊作 「ペスト」を読んで

11 佐藤ただし 水田とツバメ (18)

14 横山 仁 雑記 (20)

生活の柄(15)

横山仁

♪うんこ ふんじやった
うんこ ふんじやった

だれが置いたか
廊下のうんこ
ふんじやった

けれど 庭の老母は否定的だ

宇宙からの贈り物のような
洗面所のドアのまえの

うんこ

うんこをふんだスリッパや
靴下は
捨てる

が

素足は洗うしかない

けれど 老母の記憶にはない

だれが置いたか

廊下のうんこ

ふんじゃった

音のない朝に

前田 勉

何気なく置いた手の指先に
テーブルクロスの手端が触れた

ほつれた経糸たてと緯糸よこ

撚りが解けて

わずかに毛羽立っているその糸の先が

綿毛のように

淡く透き通って

カーテン越しに届く光の中で

浮いている

ものごとは

思い描くことから離れ

ままならない現を見透かしては

重い困惑を残してゆく

あるいは

ひとの在り方を掠め取り

逸れたふりをしながら

時に

絡まった記憶の糸から

弾かれるように

ひよいと

現れる

ねえ

壊れる前に

窓を開けようよ

と

呪文のように

誰かが呟いている

壊れる前に

か

何が

生まれた時からの

確かな日数^{ひかず}

今日

は

止まったままの

何回目かの誕生日

経糸と緯糸に組まれていたはずの日

身の周りの

音を

匂いを

景色を

当り前であった喜びを

ゆつくり確認し

祝う

音のない

朝

「ペスト」を読んで

細部 俊作

アルペール・カミュ作 宮崎嶺雄訳
昭和四四年発行 新潮文庫

一九四*年四月、地中海に面したアルジェリアの港町オランのあちこちで、ネズミの死骸が大量に発生した。やがて人間も次々に斃れ、人口二〇万人のこの市は閉鎖される。

ペスト菌がネズミやノミの体内に生息し、この菌をもつノミ、ネズミに咬まれると人にも感染するし、空气中に漂うペスト菌を吸い込むことでも感染する。古来数回の世界的大流行があり、一四世紀には世界人口の二割以上にあたる一億人が死亡した。この疫病の恐ろしさを知るオラン市民にとって、町が閉鎖され、出

入りが絶たれてしまったときの恐怖は大きかっただろう。小説は、閉鎖された町で人々がペストとたたかう姿を描いているが、そこには別の意味合いも与えられていた。

*

たまたまオランを訪れていた新聞記者ランペールは、パリにいる恋人の元へ帰ろうと、封鎖された市門から脱出しようとするが、途中で翻意する。医師リウーから、人々と不幸を共にしようとするなら、幸福のため時間はもう決して得られないかもしれない、どちらかを選ばなければならぬ、といわれるが、「自分はこの町には無縁の人間だと思っていたが、ペストに苦しむこの町を見てしまった今では、もう自分は確かにこの町の人間だ。望もうと望ままいとこの事件はみんなに関係のあることだ」と答えて、市民ボランティアによる保健隊の一員として活動する。

日中の公務が終わってから、「ささやかな仕事で役に立ちたい」という思いで保健隊の事務的な作業を続ける老吏グラン。妻と離縁後の打ちひしがれた彼の姿を垣間見たリウーは、日夜彼が仕事に打ち込む理由に

気づき、愛のない世界はさながら死滅した世界だと考
える。彼の作る統計、グラフは地域での予防活動や医
師たちの仕事を支え、保健隊の目立たぬ原動力となっ
た。

この小説が、単なる疫病とのたたかひの物語ではな
いことは、旅行者タルーの言葉によって分かってくる。
彼は、ペストが蔓延する社会を、人間を戦争や死の方
に追いやる強制的な力、大戦でヨーロッパを追い詰め
た全体主義的な風潮と重ね合わせ、それを悪だとして
いる。誰もが自分の中にペストをもっているが、その
病毒を他へ感染させないように気を緩めてはいけな
いと語る。

主人公のリウーは、一貫して患者の治療、診断等
を行い、市の保健委員会の場で、ペストを想定した予
防措置をとるよう主張する。彼が新聞記者に言った言
葉に「自分の愛するものから離れさせるなんて値打ち
のあるものは、この世に何にもない」というのがあつ
た。戦争、大量拘束、大量殺戮といった悪とのたたか
いよりも人間の愛情を選びとることに上位の価値を置
く言葉だと読める。それでいて、彼がペストという悪

とたたかうのは、医師としての務めを果たそうとする
誠実さの問題だという。底の着きかけた医療資源をや
りくりして感染のリスクにさらされながら、新型コロ
ナウイルスとたたかっている現在の医療従事者の仕事
ぶりはどんなだろう。お疲れ様、どうかご自愛を、の
気持ちだ。

*

七、八〇年前のオランと、今の新型コロナウイルス
について折々に接した情報とを重ねると、結構よく似
ていると思った。俺はペストにかかったとわめて女
性に抱き着く男がいた。入院中の患者の留守宅が泥棒
の被害に遭った。日本ではコロナで営業自粛中の店舗
に空き巣が入った。世の中が不安に覆われると、こう
いうおかしい人間はどこ国でも出現するということ。
「伝統的な結合を破壊し、また各個人をめいめいの
孤独に追いやった」、「経済を破壊し、相当多数の失業
者」を生んだ。町の方々の食料品店の店頭で長い行列
ができた。墓地に搬送する手段も人員もなく街頭に遺
体が放置された。今年春のイラン、スペイン、エクア
ドルでも同じことが起こったようだ。医師や保健関係

の専門スタッフ不足、ホテルを予防隔離所にする措置等々。オランでは新聞用紙が不足したが、今回は聞かない。ただスポンサーが不足してくると紙面の削減、放送時間の短縮、政府広報の強化といった心配が出てくるかもしれない。

半世紀以上も経ち、医療・保健対策は格段に進歩していると思つたが、この類似は何だろう。裏返してみれば、むしろオランの頃が現代にかなり近い対応をしていたのかも思える。グローバル化が進んだため感染拡大のスピードが早くて、対応が後手に回ったとか、新種のウイルスに対抗できるワクチン開発が間に合わないとかいわれる。そうなると人間の対応も半世紀前と同じようなことを繰り返すということか。感染症をかなり初期に抑え込まないとうなる、という姿を見せられているような気がする。

*

小説のペストは一二月末になって衰え、翌年一月下旬に終息するが、その間、多くの市民とともに主な登場人物の幾人かが犠牲になった。そしてこの疫病はついに町から姿を消すが、その要因が何だったのか明らか

かではない。そのことが不気味に残っている。(了)

水田とツバメ（二八）

佐藤ただし

生まれ育った場所で

今年初めてツバメを見たのは三月二一日の夕方だった。家の前で空を見上げていた時だった。空は曇っていて雨雲のような雲間から黒い小さな影が現れ、すぐに過ぎ去ったような気がした。しばらくその姿を探していると、近所の家の屋根の陰からツバメが現れ、何度も家の周りを旋回しながら飛んでいた。今年は暖冬だったせいかな、去年より六日早く見ることができた。

この時期になると畑や田んぼに人の姿を見かけるようになる。田起こしの前に田んぼの高低差を無くすために、田の低い所に土を運んだり、昨年コンバインや田植え機が埋まってしまった場所に砂を入れたりする。スコップを持って田の隅を整えたりしていると自然

と農作業をするモードになっていることに気づく。土を掘り起こすと重く感じられる。こうした作業に耐えられるようにと、冬の間は残飯の入ったポリバケツを持って、家の畑まで約一キロの田んぼ道を歩いた。

田んぼ道は砂利道で、縁の草の生えているところを歩く。早朝はまだ人の姿もなく、東の方向に太平山の姿を毎日見ることが出来る。こちら側からだだと、前岳や中岳、奥岳などと連なる山々が遠くに見える、その姿は毎日変わり、雲や霧に隠れて全く見えない日もある。まだ朝日が昇る前のうっすらとした時間に田んぼ道を歩いていると、目の前の草の生えた砂利道をアオジが先をちょんちょんと歩いてゆく。スズメ大のこの小さな鳥は私との距離が近づくと、さつと数メートル先に飛び、またちょんちょん歩いて餌を探している。あまり人を警戒しないのか、家の近くの生垣などにもよく現れる。

四月末になると田植えの準備を始める。まず土壌改良剤や肥料を田んぼに散布する。その後トラクターで耕起して、田んぼに水が入る時を待つ。その他にも給排水口を修理したりとやることはいろいろある。

代掻き作業は土をある一定の深さで拳くらいの大きさに耕起した後に水を入れ、トラクターの後ろに付けたハローという、碎土と均平を兼ねた農機具で土を細かく練り、均平にする作業だ。昭和四〇年代頃までは馬に鉄の爪が多く付いた馬鍬（まんが）という農具を引かせ代掻きをしていたが、当時もハローと呼んでいたというから、海外から輸入したのもあったのかも知れない。

代掻きの仕方については、富山の長島文治さんという人がやっていた方法が気に入って今もやっている。技術的なことだが、代掻きは荒掻きと仕上げというふうに一枚の田んぼを二度代掻くが、長島さんのやり方は簡単に言うと、荒掻きは田んぼの縁から直進し、畦に突き当たったら左回りに代掻きし、また畦まで行ったら左に曲がり、元の位置に戻ったら代掻きが済んだところの内側を少し重ねて同じように代掻きしてゆく。そして順々に中へ回って、四角い渦を描くように進み、最後は田んぼの真ん中を代掻きして終了する。二回目はその逆コースを中から外へ右回りに回って、最後は田んぼの縁を回って外へ出て行くやり方だ。このやり

方だとトラクターの旋回する場所が田んぼの畦畔の近くを旋回しないため、耕盤が壊れにくい。また、トラクターを田んぼに入れて代掻きすると、旋回するときのタイヤの跡が残って、人の手を掛けることが多いがこのやり方だと代掻きしながらタイヤの跡が消えてゆくので、手直しが楽になるのが気に入っている。

今年もこの方法で代掻きをした。代掻きする前に水をできるだけ少なく入れて、草や稲わらが浮かないようにし、代掻きした後、トロトロの土の表面が現れ、余分な水が田んぼの表面に現れないのが理想的だ。そして、代掻き後、田植えをするまでに水を入れておくが、この時、草や土の一部ができるだけ顔を出さないようになっているようにしたい。そのためには田んぼは均平であつたほうが良い。代掻きの上手な人が代掻きした田んぼは表面が真っ平な盤面のようになる。

私が住むこの地域は平成の初めに、それまで一枚一〇アールの田んぼを一ヘクタールと三〇アールの大きな田んぼに作り替え、地下に埋設したパイプラインで給排水を行うように作り替えた。そのため、大型機械を導入しやすくし、省力化が可能になった。

そうしたことが背景にあるせいかな、この地区で代掻きをしている人の顔ぶれは少しずつ減ってきている。高齢や病気が理由だが、稲作を委託しやすい環境にあることも一因となっているようにも思う。その人たちの分を残った人達が肩代わりしていて、機械は年々大型化する傾向にある。

私も一員になっていている法人が所有しているトラクターは六五馬力の大きなものだ。今年はこのトラクターに乗って代掻きをするようになった。ハローの幅は四メートル以上ある。

農機具の性能は日進月歩で進化し、省力化を図っている。田植えなどは、手植えの時代は一人で一日一〇アールの田植えが出来ると一人前と言われていたそうだが、現在は田植え機一台でその一〇倍の面積を三時間程度で終えることも可能だ。先日、最新式の田植え機の試乗機に乗る機会があつて、代掻きの合間に乗ってみたが、GPSを搭載したその田植え機はオペレーターがハンドルを操作しなくてもあらかじめ入力された位置情報を基に、田植え機の曲がりを修正することができる田植え機だった。この田植え機は田植え機

進路があらかじめ設定された位置から逸れると、ハンドルが反対方向に切られて修正される仕組みだと想像する。農業のベテランが高齢化して行く現状では必要な機能なのかもしれない。今後他の農機具にも搭載されるだろうと思つた。

夕方、代掻きを終えて帰る途中、トラクターのキャビンから水を張った田んぼに雲や空や山が映つた。この田んぼは縦が二〇〇メートル、横が一〇〇メートルの大きな水田だ。丁寧に代掻きしたのか、草や土塊が現れている所もなく、並々と水を湛えている。水面に映る積雲と水色の空。トラクターの移動と共に映る太平山の山並み。

だいぶ日も沈み掛けた頃、ツバメが四羽トラクターにまとわりつくように飛んできた。しばらく農作業に気を奪われ、ツバメのことを忘れていたが、ここに住む人に親しみを感じているのか、繰り返して近づいてきては体を翻し、またやってきては去ってゆく。こうした風景の中で、ツバメは私たちと共に生きて行くことを知っているようだ。

横山 仁

武漢コロナウイルスにかんしては、YouTubeなどで、科学者の武田邦彦先生（虎ノ門ニュースの司会で紹介をかりる）が、インフルエンザよりも患者数も致死率も少ないのに、なぜ騒ぐのだろうかといったこともあり、ワクチンがないからといっても、たいしたことではないだろうとおもっている。コロナのせいで、インフルエンザによる死者は、激減したようだ。

また、生物兵器かどうかまだ結論は出ていないが、いずれ黒幕が云々される時がくるだろう。Follow the moneyだ。ちなみに、5月15日の虎ノ門ニュース（コメントーター／武田邦彦・須田慎一郎）の再生回数は130万を超えたという。それだけ、マスメディアのプロパガンダではない、真実の情報をもとめている人

が多いことだろう。

面黒い情報があった。YamatoPress（やまと新聞社）
2020/04/05 22:56 による。

（引用開始）

【偶然か予告か】2019.10.18 世界経済フォーラム・ビルゲイツ財団「パンデミックシミュレーション」

この動画は公式動画を元にEden Mediaが作成。非常にわかりやすくできていますので是非ご覧ください。これは偶然なのか。まるで予告のようなパンデミックシミュレーションが2019.10.18にNYで開催されていた。

「次に起きるパンデミックはコロナウイルスによる」これを想定して開催された『イベント201』は2019.10.18にニューヨークで、世界経済フォーラム、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ジョンズ・ホプキンス健康安全保障センターの共催で行われ、コロナウイルスは18カ月以内に6500万人の死者を出し、世界経済

を大暴落に追い込んでいくというシミュレーションがなされていた。

これが新型コロナウイルス発生6週間前に開催されていたことが非常に興味深く、いままさにこの「Event201」で予測された通りの事態となっている。

(引用終わり)

もうひとつ。「タマちゃんの暇つぶし」より。

(引用開始)

”国内感染者数の、半分以上が、中国人・韓国人だった件”

2020年05月17日22時02分58秒NEWS!

テーマ：ブログ

・パチパチ〜大拍手!

*日本の数値は信頼がたけぬ事は周知の事実でありますが、この隠しは悪辣だ猫(注、ニヤーとよむ)

腹に一物、背に荷物、国民には余ほど知らせたくな

いのだらうw

政治家&官僚がどの方向を向いているのかが良くわかりました。

・次いで宮崎さんのメルマガより：貼り付け開始、

◆◆☆◆◆◆◆◆☆◆◆◆◆◆☆◆◆◆◆◆☆◆◆◆◆◆☆◆◆◆◆◆

「宮崎正弘の国際情勢解題」

令和2年(2020)5月15日(金曜日)通巻第6500号

~~~~~  
日本の感染者、16004人、死者713名(5月14日現在)だが60%近くが外国人。「国籍別の発表はない」

\*\*\*\*\*

日本で最初の感染の広がりにはクルーズ船と北海道だった。札幌雪祭りに押しかけた外国人(どこの国からは想像にお任せ)に溢れた。感染者の58%が外国人だった。

2020/05/31 11:37》拡散希望とのこと。

こうしたことは、たぶんマスゴミでは紹介されていないのだろう。

また、黒幕なのだろう、「ビルゲイツ ロシア公共放送が衝撃の事実を公開!! コロナと人口削減【ビル・ゲイツ】字幕版」も YouTube で、見ることができる。46831 回視聴、2020/05/21。自然のウイルスよりも、ビル・ゲイツのワクチンに入っていたウイルスで子どもたちが死んでいるという。(余計なお世話だ) ビルゲイツ財団は、アメリカについてWHOに寄付金を出している。このWHOのテドロス事務局長は、中国(中国共産党)からカネをもらっていて、付度しているといわれている。

もうひとつ。コロナに関して、「ハリー今村」さんが「放知技」でかいている。

2020/05/20 (Wed) 16:38:20

(引用開始)

厚生省統計では年代別の発表があるが、国籍の区別は不明である。  
ようやく情報が漏れてきた。

日本に於ける感染者の60%近くが外国人らしい。日本の国民の積み立てや国家予算、地方自治体の負担などで成り立つ病院に、一銭も支払わない外国人が治療を受けているとは、何かか転倒している。

☆○▽◇み◎○△□や○△□◇ぎ◎○△□き△□☆  
~~~~~

貼り付け終わり、
(引用終わり)

これに関して、YouTube に次のような動画がある。
《『スターズ！厚生労働省がコロナ患者の「国籍」を隠せと指令した「動かぬ証拠」』
第118回【水間条項TV】ワリー動画 65,388 回視聴

前記コメントを補足。

欧米人は新型コロナウイルスに罹りやすいHLA因子を保有し、アジア人は新型コロナウイルスに罹りやすいHLA因子をほとんど持たず、いまだに感染死数が0人のラオス、ベトナム、カンボジアの国民は新型コロナウイルスに罹りやすいHLA因子を全く持っていない可能性があるのでは、とする見解がネット上にある。

BCG 仮説、食習慣仮説よりもHLA 仮説は有力？ あ
るいはこれらの総合力か。HLA 仮説でいくと抗体以
前の遺伝的体質なので、ある意味、アジア人には新型
コロナに対する集団免疫的体質が遺伝的に獲得されて
いた、と言えるかもしれない。100万人比の死亡率
は中国も含めてアジア各国は軒並み5人以下。

*

「放知技」でなに？ とおもったのが、mespesado
さんの記事だった。

(引用開始)

237 名前： mespesado 2020/05/16 (Sat) 23:08:02

↓何これ？

[https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200516/
k10012433241000.html](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200516/k10012433241000.html)

思わず、「日本の世論ってそんなにマスゴミのアンチ
トラノンズ報道に洗脳されてるの？バカなの？」と思っ
てしまいましたよ。

まずこのアンケータが捏造である可能性もあるし、
もし捏造が無いとしたら、世間はトラノンズの何を嫌っ
ているんですかね？さっぱりわからん。

(引用終わり)

なんだろうとリンクを見ると、つぎのような記事
だった。

(引用開始)

NHK世論調査 トランプ再選は悪影響 日米同盟は維持・強化

2020年5月16日 17時58分

アメリカ大統領選挙を前に行ったNHKの世論調査で、トランプ大統領が再選すると日本に「悪い影響が大きい」と答えた人が半数を超える一方、日米同盟は「維持・強化すべき」とした人が7割にのぼり、専門家は誰が大統領になろうと日米関係は重要だという意識が浸透していると指摘しています。

(引用終わり)

たしかに、バカだわ。

*

「松岡正剛の千夜千冊」で吉田一穂をとりあげているが、そのなかで、加藤郁乎氏の言葉が紹介されている。参考までに。

(引用開始)

こんな詩人はもういない。加藤郁乎は「北原白秋ですな、次が西脇順三郎で、そして吉田一穂ですよ。日本の詩人はこの三人ですべてです」と言った。この評定は、西の知と東の無をひどく重ねられた詩人としての本質を穿っている。郁乎さんらしい評定だ。たしかあと二人加えると、そうですねえ、瀧口修造と飯島耕一でしょうかねえとも言っていたように記憶する。郁乎さんの好みと他の詩人のことはともかく、一穂はたしかに西としては幾何精神の詩人であり、同時に東としては半眼微笑の詩人だったのである。

(引用終わり)

吉田一穂にかんしては、「母」ぐらいしかおぼえていないが、おもしろそうだ。また西脇順三郎も、イヌラム学の井筒俊彦氏が詩人への追悼文で、「生涯ただ一人のわが師」と呼び、敬意を表した、という。(井筒俊彦入門、慶應義塾大学出版会HPより。執筆・若松英輔氏)

*

《【極左・野党が狂気のレベルまで来たか】10兆円予備費の大幅減要求 野党》というのは、へつびりごしさん。2020年06月03日(水)。《アホンダラ11》とも。こいつら、日本人のことをかんがえない、反日のクズやんけ。カネが、どこからか出てるんだろうな。中国のアピガンタ費は1兆を超えるというから。

*

「文殊菩薩」より。執筆・野崎晃市氏。2020-06-04(06:38) (<http://iiyama16.blog.fc2.com/>)

(引用開始)

ロシアでアピガン後発薬の投与開始

アピガンがロシアの救世主になるか

新型コロナウイルスの増加に苦しむロシアで、アピガンを基に開発されたジェネリック薬「アピフアピル」の投与が11日より開始される。

「アピフアピル」はロシアの科学者がアピガンに改良を加えたもので、臨床試験で40人の65%で5日以内に症状が緩和されたという。

アピガンは日本の富士ファルムが開発した薬で、新型コロナウイルスとして期待されたが、日本では厚労省により承認されていない。

そのため、アピガンは日本では治験目的でしか使用できないが、日本から海外40か国以上に無償提供されているという異常な状態。

厚労省がアピガンに承認を下さない理由の一つは、発売元の富士ファルムに厚労省からの天下りがいないためとささやかれている。

(引用終わり)

あとがき

◆ AUの3Gケータイが2022年には使えなくなるというので、年寄り向けのかんたんスマホに換えた。たとえば、ガソリンスタンドのスマホ会員になると、ガソリンが2円／リッター安くなるなど、これはどういうことなんだろうと思いつつながら、試行錯誤している。いまでも、スマホで音楽を聴きながら作業中…。(J)

◆ コロナウイルスに関連した横文字が日常語になっている。ソーシャル・ディスタンス(～・ディスタンシング)、クラスター、オーバーシュート等々。なぜ日本語で表記しないのか、などと言うのは気が引ける。「自粛」もすっかり日常語になった。ふと「粛」の書き順を確認すると、私は見事に間違っていた。自国語をマスターしなければ…。(B)

◆ 3月某日、県立博物館の企画展。太平山が漁師や海運の者にとって方角を知る目印になっていた、それで山形、新潟から航海の安全を願う参詣者もいたのだと知った。では、金山滝からの登山道に立つ金刀比羅宮の石碑は航海安全の願いか、五穀豊稔の願いか。両方か。これからもあの路を登って考えるべ。(S)

◆ 3月にツバメを見てから、巣作りのため物置小屋のシャッターを開けて置いたが、近所のトラ猫が小屋に入り、籠の中で出産、子育てをした。親猫が怖そうで近づかなかったが、子猫の声が時々聞こえてきた。その後子猫の声も聞こえなくなったので、恐る恐る見てみると、籠の中はもぬけの殻で子育ての形跡が全く残っていなかった。(T)

「海市」 第20号

2020年6月9日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方